



中河 つる子 議員

## 高齢者の 補聴器購入に助成を

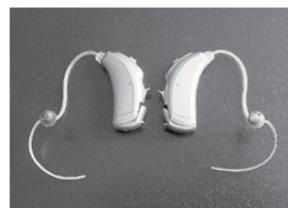
町長 身障者手帳の取得で受けられる助成制度がある

**問** 一般的に70歳を超えると約半数の人が加齢による難聴を発症すると言われている。難聴が原因でコミュニケーションがうまくとれなくなると家族や社会から孤立し、生活の質や生きる意欲まで低下してしまう。

**町長** 介護認定を受けている方は619名（7月末現在）で、そのうち医師意見書による認知症発症者は309名、認定調査により聞こえに支障がある方は188名で約3割となっている。介護認定は認知症の原因を調査するものとはなっていないため、人数は把握していない。

**町長**

特定検診は、生活習慣病の予防のため40歳から74歳までの方を対象に行っているもので、結果により保健指導につなげている。検査項目については、国で統一されており、聴力検査を特定検診に加える予定はない。



補聴器は高額なため購入をためらう人も

**町長** 専門医の診断を受け、必要があれば聴覚障がいのある身体障害者手帳を取得できる。その上で、その方に適合する補聴器について北海道の専門機関から判定を受けると、障害者自立支援法に基づく補聴器給付の助成対象となるので、まずは保健福祉課に相談を。

**問** 補聴器は一般的に、片耳だけで7万円〜20万円と高い。町で助成して補聴器を利用しやすいとはいかがかが。

**町長**

補聴器の利用で認知症やうつ病への進行を防ぐことができれば町全体の医療費を抑える効果もあると考える。

**町長** 文字の大きさは、職員がパソコンを使って独自に作成している文書であれば調整できる。法令等で様式や形態が規定されていると限られた範囲に必要な情報量を漏れなく表示する必要があり、文字の大きさを自由に調整できない場合がある。

**町長**

窓あき部分も紙資源としてリサイクルできる素材の封筒を使用しており、引き続き使用したいと考えている。限界はあるが、可能な限り改善する。

## 三流政策からの脱出？ 誤解を生む表現では

町長 これまでの政策を否定する意味ではない

**町長** 「三流政策からの脱出」という言葉は、柔軟な発想を持つことと固定観念に捉われなれないとの意味で表現したもので、今後は誤解を招くことのないように心掛け、この表現は使わないことにする。

**問** 各種研修に使われる町長が用意した資料に、「三流政策からの脱出」という表現があった。これまで町政に携わった多くの町民に対して非常に誤解を生む言葉だと感じる。この言葉を改める必要があると思うがいかがか。

**町長**

公約である給食費無料化は大きな財政負担となり、その公約に疑問を持つ町民も多い。今後、町民との約束をどのように果たしていくのか。年間3500万円を超える財政負担を抱えるよりも、教育環境の整備等に使う方がより現実的で効果的であると考えがいかがか。

**町長**

今年度においては優先順位として保育所や幼稚園の給食費無料化に踏み切った。今後は、安心安全な地産品を取り入れた給食を教育の一環と捉え、さらに、給食費の無料化の検討を含め、義務教育費の負担軽減に向けて努力する。



鈴木 孝寿 議員

## 給食費の無料化はいつ実行されるか

町長 義務教育費の負担軽減に向けて努力する



うれしい給食の時間（清水幼稚園）

## デイサービス事業 経営移譲は怎么样了か

町長 移譲予定の法人において検討中

**町長** 社会福祉協議会において来年4月に経営移譲する考えを持っているデイサービス事業は、移譲予定の法人において検討中であり、結論には至っていない。今後においては、移譲に際して運営の支障となる課題の解決に向けて、町として必要な対応は取っていききたい。現状においては、20年を経過する施設の整備を含めて円滑に運営できるように、できる限りの支援をしていく。

**問**

利用されている方や町民の関心度が高いデイサービス事業の経営移譲を含めた来年度以降の取り組みについて、現段階での方向性と現状について伺う。また、事業がスムーズに移行されるための、町としての取り組みについても伺う。